

韓国留学体験記

@若林聰実（経済学部4年）

留学先 韓国ソウル市、延世大学校

期間 2006年8月～12月

留学の種類 学部間交換留学
(クラーク財団奨学生金受給)

留学の動機 アジアに興味があり、特に韓国に縁があった(交換留学の枠も余っていた)。それと自分を追い込むため。



(写真右が若林さん)

費用 >> 寄費16万円、生活費30万円、保険4万円、旅行4万円
(渡航費はマイルを使ったのでなし！)

お金 ¥¥¥
レート >> 100円=780ウォン (概算)

ある1週間のできごと

	月	火	水	木	金	土	日
午前	授業の予習	イギリス人と英語の言語交換	10:00-12:00 授業①	授業の予習	10:00-12:00 授業①	寝る	寝る
午後	16:00-18:00 韓国語	16:00-18:00 韓国語	13:00-15:00 授業② 16:00-18:00 韓国語	16:00-18:00 韓国語	13:00-14:00 授業② 16:00-18:00 韓国語	授業の予習	カフェで勉強
放課後	韓国人と韓国語の言語交換	洗濯や授業の予習	韓国人と韓国語の言語交換	韓国人と韓国語の言語交換	寮や韓日交流センターのバーティー	韓国人と飲みに行く	誰かとご飯を食べに行く

(備考) 授業① : Democratic & Economic Development in Korea
授業② : Korean Business Ethics

■動機■

昔から、なんとなく海外に行ってみたかった。なんとなく海外に対する憧れがあった。海外で暮らしてみたい、海外を駆け抜けするような仕事がしたい。だからなんとなく留学してみたかった。その中でもアジアに興味があって、第二外国語も中国語を選んでいた。2年生になって必修じゃなくなっても中国語を履修した。しかしその年(2005年)に巻き起こった中国の反日感情と、付随した事件の数々に、一気に私の中国熱は冷めてしまった。その年に予定していた中国旅行はヨーロッパ旅行に変えた。初めての一人旅、それはそれで楽しくて、海外に目を向けるきっかけになった。

そんなこんなで2年生の後期を過ごしていたが、留学してみたいという気持ちを捨て切れなかった。長期間渡航するなら、今の年がギリギリのチャンスだという、担当教授からの言葉が私を後押しした。交換留学できる国から、近いけどなんとなく遠い、それでいてちょっと私と縁がある韓国を選んだ。母が韓流ブームに乗って韓国ドラマ好きだったため多少の関心はあったことに加え、日韓ワールドカップの際の韓国の異様な盛り上がりは私の興味を惹きつけた。初めての海外旅行も韓国だった。大学で初めてできた外国人の友達も韓国人だった。ヨーロッパに旅行した時、唯一できた友達も韓国人だった。近くで遠い、そして私と縁のある韓国。この国に少し嵌ってみるのも面白いかもしない。しかも、協定のある延世大学校は授業を英語で行う。英語が嫌いで、苦手で、コンプレックスだった私にもぴったりだった。普通、英語で授業を受けるような留学は昔から英語が好きで、もっと英語を上達させたいと思う人が行くのが大半であろう。私みたいに大学2年でTOEFL-PBTが400点台前半のような、「英語なんて大嫌い！」なタイプは、留学なんて行かないだろう。でも私は英語を苦手のまま終わらせるのが嫌だった。だから、決断した。

こうした経緯で、韓国の延世大学校へ留学することになる。

■授業と普段の生活■

入寮から2週間後の9月から授業が始まった。北大同様お試し期間があり、見に行って気に入らなければ変更が可能だ。私がとったのは3つだ。「Democratic & Economic Development in Korea (韓国の民主・経済の発展)」と「Korean Business Ethics (韓国の企業倫理)」と「Korean Language (韓国語)」である。前の2つは英語による授業で週2回、韓国語は月～金毎日夕方に2時間。他の人の数倍予習復習や課題に時間がかかるを見込んで、少し余裕をもたせた。

□やっぱり私は英語ができなかっただ…

韓国の民主・経済の発展は私をもっとも苦しめた授業だった。第二次世界大戦後の韓国の発展を、歴代大統領を軸に追う授業である。留学前にもっと英語を勉強しておけば良かったと本気で後悔した。韓国人の先生のため(しかし前の学期まで十数年アメリカの大学で教えていたそうだ)スピードは遅く、わりと聞き取りやすくなっていた。しかし政治経済用語が多くて先生の言っていることというか、単語の意味が分からない。教科書(といっても市販の本ではなく、必要な文献をコピーして製本したコースパックというものだ。違法ではないのか…?)を開いても、分からぬ單語ばかりという状況だった。初めのディスカッションは当然(?)何も言えなかった。特にカナダ人の英語は滑らかなのか訛りのせいなのか、ほとんど聞き取れなかった。そんな状態だったが、教科書を必死に読み、時には日本語の文献も頼ったが、だんだんと授業内容が理解できるようになった。今では信じられないが北朝鮮よりも経済的に弱かったことや、軍事独裁政権が長く続いたことの良い面、労働争議、学生運動…こうしたバックグラウンドを知ることは現在の政治経済情勢を理解するうえでも重要だ。韓国人に根付くものを少し感じた気がした。

この授業は中間・期末の2回の試験があったが、先生から予想問題が配布され、その中から似たような問題が出るということで試験勉強の仕方には苦労しなかった（もちろん解答を作るのに苦労したが）。加えてプレゼントが1回あったが、教科書の内容をまとめてディスカッションポイントを作ってくるというものだったので、ネイティブの友人に頼って完成した。

ディスカッションの回数が少なく、プレゼンも個人なため、出会いの少ない授業であった。しかしその中でも韓国人のキヨンと台湾人のワンチェンとは授業後必ず昼食を共にし、テストの時は助け合った。彼らと話すと、同じアジアの中での日本や、文化の違いなどを感じさせてくれた。

□韓国企業の倫理観念って？

2つ目の韓国の企業倫理は実にユニークな授業だった。まず、初回でグループを組まれた。必ず男2人・女2人で、延世の学生と留学生が2人・2人で、あとは好きに組めというのだ。当然ほとんどがその場が初対面の人たちである。私はなんとかその場でグループが組めたが、残った人はオークションにかけられる。自己アピールをし、欲しいグループが手をあげる。正直、日本では考えられないやり方である。グループ名をその場で決め(dangerous chameleonになった)そ



↑初めての課題

の日、初めての課題が与えられた。「グループでディナーをとり、その写真を5枚以上撮つてくること」—なんじやそりや。と言いたいところだったが、課題なのでこなすしかない。その週、dangerous chameleon のメンバーで焼肉を食べに行った。

次の課題はモトローラを例にとった企業倫理のケーススタディ。その他韓国の企業倫理を考えさせられる問題。授業は約60人、大半が欧米からの留学生で、授業中に活発に議論が交わされた。日本人との違いを感じる瞬間である。とにかく彼らは自己主張をする。授業の本題は「韓国と、韓国での儒教的思考について考える機会が多くあった。やはり年功序列を採用している企業が多いようだ。欧米人には理解できないようであった。ミニクエスチョンで「年功序列型賃金と成果主義賃金、どちらが韓国の企業に合っているか」という問いでも、韓国人は「自分は嫌だが、今の韓国の国民性から考えると年功序列といわざるを得ない」と言っていた。日本よりずっと年功というものを大事にする。最後の課題は韓国企業と外国の同業他社との経営比較。韓国の企業もかなり「企業の社会的責任」「教育制度」など、気合いを入れて制度を色々と作っているらしい。しかし、よく聞く話では「韓国人はビジネスの相手として国際社会で嫌われている」ということである。自社の社員教育や、韓国内のビジネスは（大企業では）しっかりとしているようだが、国際社会では敵が多いらしい。韓国が今後国際社会で生きていくためには、国際社会に合わせたルール作りが必要だと感じた。

□韓国語クラスでは優等生…

毎日ある韓国語の授業は実に楽しかった。レベル別にクラス分けされていて、韓国に来る前ほとんどの韓国語を勉強して来なかつた（一応教養の第3外国語で半年履修したが、真面目とは言えなかつた）私は初級クラスである。日本人留学生のうち、下から2番目（しかも1番下は同じ大学から来た学生で、隣りのクラス）という不名誉なクラスだつた。勉強していないのだから当然だが、クラスメイトはアメリカ人が大半、あとはカナダ人と台湾人が一人ずつだ。

英語で受ける授業と違って、初心者なのに全部韓国語で行う授業で、私はクラス一の優等生だった。日本語と韓国語は文法がほぼ同じだからである。同じ理由で韓国語の前に少し日本語を勉

強していたというアメリカ人の学生も、やっぱり飲み込みが早かった。月日が経つにつれて、韓国語にハマり、自学自習していた私にとって授業はどんどん簡単になった。それでも授業には行ったが。

□普段の生活

住んでいた寮と、留学生が集まって授業を受ける New Millennium Hall、韓国語の授業を受ける語学堂はそれぞれ 100m も離れていない。それぞれに食堂もあるので、平日はそこだけで 1 日を終えることもできるが、それではあまりにも淋しいので、色々と出掛けた。

寮の部屋は 2 人で、ベッド、机とイス、冷蔵庫、小さなクローゼットがついていた。私のルームメイトはオーストリア人のラフェーラ、スタイルの良い、いかにも欧米人体系で、隣で寝ている彼女のボディラインに何度ドキドキしたことか。韓国語は全くできないが、母国語の他にフランス語やイタリア語もいける、マルチリンガルだった。特に仲良くもないが、スピーカーの音がうるさいとかいう嫌な思いもせず、彼女との生活は快適だった。ちなみに違う階ではノイローザになってしまった女子学生が夜中徘徊し、叫び声が聞こえたというのだから、ルームメイトはさぞかし怖い思いをしただろう。

生活必需品は寮から歩いて 15 分ほど、新村駅直結のグランドマートで何でも揃った。ソウルナビ（韓国観光案内のポータルサイト）にも載るほど、最近有名な格安スーパーだ。食料品や日用品など日本と同じくらいの価格だが、何しろなんでもセット販売するので一人暮らしには不便だった。歯ブラシ 10 本セットとか、2 リットルジュース 2 本セットとかで売っている。ここでは

寮にはキッチンがないので朝以外はほとんど外食だ。普段の朝ご飯はグランドマートで買ったシリアル+ヨーグルト、時々 1 人の夕飯はカップラーメンだった。それ以外は誰かと食べに行っていた。学食では 300 円くらいで定食が食べられるし、外でも 500 円もあれば十分ご飯が食べられた。私のお気に入りは焼肉で、豚の 3 枚肉の焼肉と焼酎でしゃくちゅう一杯やっていった。それでも 1000 円もいかない。日本食や洋食のレストランもあったが、韓国食に比べて格段に高いし、美味しいのではほとんどが韓国食を食べていた。

■国際交流サークルとイベント ■

□韓国人は信用ならない！？

はじめは何かクラブにでも入ろうと思っていたが、テコンドークラブは月 8000 円もクラブ費を取るからやめた。そのかわりに留学生仲間や韓国人の生態を掴むこと、もとい文化理解のために交流に力を入れることにした。まずは言語交換と思い、Yonsei Global という国際交流サークルに、言語交換の相手の斡旋を申し込んだ。楽しみにしていた 9 月初めのマッチングの日、私の相手は現れなかった。そんな目に合った日本人の女の子が他に 2 人。来なかつたので、私たちには言語交換の相手を他に紹介することはできないという。どうしてもというなら、まだ一度も会ったことのない自分の相手に、自分から連絡してくれと。「なぜ他の日本人は言語交換の相手が手に入れられるのに、私たち 3 人はダメなのか。不公平じゃないか。あなたたちには私たちに紹介する責任がある」主張したけど無駄だった。この日を境にこのサークルは信用しなくなつた。

延世にはあと IYC と MENTORS という国際交流サークルというサークルもあって、計 3 つのサークルが留学生の歓迎パーティやらイベントやらを企画してくれている。私が最も仲良くしていた MENTORS は buddy と呼ばれる留学生 1 人に対して 1 人の延世の学生が「メンター」として相談に乗ってくれたり、遊んでくれたりする。buddy のヒヨノと、彼の友達の MENTORS のメンバー、さらにその buddy の日本人の女の子と遊ぶこと也有つた。

延世の留学生は、勉強する場所も、寮も、一般の学生から隔離された場所にあるので、ほとんど交流がない。そういう意味では、韓国人学生と友達になりにくく環境だ（一般の学生と一緒に

受ける韓国語での授業を取ればいいが)。しかし彼ら国際交流サークルのおかげで、延世の学生と友達になることができた。

□韓国版早慶戦「延高戦」

延世で最大のイベント(だと思われる)延高戦もMENTORSに連れて行ってもらった。延高戦は延世のライバルの高麗大との定期戦、日本で言えば早慶戦だ(ちなみに高麗大では延高戦ではなく高延戦と呼ばれる)(笑)。野球、バスケ、アイスホッケー、ラグビー、サッカーで争われる。金、土曜と行われるのだが、みんな授業をサボって、延世カラーの青いTシャツを身にまとい、オリンピック競技場へ向かうのである。メインは競技の応援、というか、ダンスだ。

宝塚歌劇団のような衣装をまとった応援団のリードで、ひたすら踊る。もはや、誰も競技なんて見ていない。野球で先制された時、延世サイドは誰も気づいていないという恐ろしい状態である。バスケの試合に至っては、延世のコーチが逃亡したとかなんとか(!)で、3時間踊りっぱなし。そんな状態で飲むんだから、酔わないわけがない。しかも、飲むのは韓国人学生が御用達の安い焼酎(500ml位で400円)のみを、ストレートで、だ。さらに韓国人学生が「これが韓国式の飲み方だ!」とかなんとか言って、腕を組んでの飲み方を教えてくれ、それを強制され、くいつと3杯。私はこの日生まれて初めて記憶をなくした。ひどい状態で、タクシーに連れられ帰ったそうだ。友人に感謝だ。

しかし翌日も私はスタジアムにいた。2日目の夜がメインイベントだと知っていたからだ。この年は2勝2敗1分けと、素晴らしい温かみな結果で終わつたが、その後は延世のホーム、新村という繁華街に戻り、飲めや歌えやの大騒ぎ。無法地帯と化するのだ。기차들이(汽車遊び)と呼ばれるのだが、前人の肩を掴み、はぐれないように新村を右往左往する。居酒屋の前で止まり、「酒くれ」と呼び、昼間散々歌つた応援ソングで踊る。そうすると店の奥からおじさんが酒とつまみを出してくれるのだ。しかもタダで。それを飲み、食べ、お礼の印にまた踊り、次の店へと走つて行く。拒否する店はない。そうすると悪い噂が立ち、延世の学生が来てくれなくなってしまうからだ。しかも気付くとなぜか高麗大の学生までいる。ちなみにこの後は大学に戻つて、コンビニで買った酒でまた飲み、踊る。オールナイトだ。この日、韓国人の情熱に触れた。韓国人は、熱い。



↑私(左)とルームメイト(右)



↑バスケの試合の様子

□ハロウインパーティーで入賞!?

10月31日はMENTORSのハロウインパーティーに参加した。仮装コンテストで優勝すれば30万ウォン(日本円で3.6万円ほど)だというもんだから、気合を入れた。一般的の延世の学生もいたが、仮装していたのは留学生ばかり。留学生はイベント好きなようだ。かくいう私はぱりぱりのヴィジュアル系メイクをし、決勝まで残つた。優勝は残念ながら逃したが、どうやら外国でもウケるようなので、仮装ネタに困つたらぜひやってほしい(笑)。

■友達関係■

□I-Houseの人々

留学生専用の寮「International-House」、通称「I-House」の人々とは時々遊んだ。I-House内には中国系、欧州系、韓国系（=在米韓国人が主）などいくつかのコミュニティが出来上がっていて、私が仲良くしていたのは欧州系だった。ちなみに日本人は私だけか、時々もう1人増えた程度だった。一応日本人コミュニティもあったらしいが、いまだに何故私がこのコミュニティに参加したのか分からぬ。気付いたらここに所属していたという方が正しい。幸い日本人がほとんどいなかったため、日本語を使おうという甘えもせず、サバイバルには十分だった。英語のできなさに何度も落胆したが。彼らは週末飲みに出かけ、誘われる所以何度かついていった。日本では行ったことのないクラブにも出かけた。彼らにとって、飲んだ後にクラブに行くのは日本人が二次会でカラオケやボーリングに行くことと同じくらい自然なことらしい。もっともクラブ初体験で踊れない私には何が楽しいのかよく分からなかつたが。

中には韓国に来る前に日本にいたという人もいて、彼らはカタコトの日本語で私に話しかけた。特にイギリス人のライアンとは仲が良く、週に1回日本語と英語の言語交換もした。彼は新潟の大学院に通いつつ、延世に留学していて、韓国の後はまた日本に戻るそうだ。専門が東アジアの政治外交らしく、私より日本を知っていてこっちが恥ずかしくなるくらいだった。私のレポートやプレゼンを何度も添削してもらった。彼のおかげで単位が取れたようなものである。

I-Houseの人たちとの思い出で一番印象深いのがサッカーだ。まだ初めの1、2週間の頃、I-House内でサッカーをしようという話になっていた。その頃、英語は全く分からなくて臆病になっていた私だが、参加することに決めた。当日、集まつたのは男20人くらいと女4人。しかも雨。しかしサッカーは最高のコミュニケーションだった。実は高校時代は女子サッカー部でプレーヤーをしていた私は試合でかなりの活躍を見せた。私のアシストでゴールも生まれた。「君は最高のプレーヤーだ」と褒めてもらい、名前も覚えてもらつた。その後もしばらくは「あの時もプレーは最高だったぜ」と話題に上つた。この日からサッカーは私の代名詞となった。その後も何度もサッカーをした。サッカーは国境を越えることを実感した。

ただ、途中から I-House 内ばかりでつるんでいるのに対して「せっかく韓国に来たのになんで韓国人と仲良くならないのだろう」という疑問が出てきてしまい、あまり遊ばなくなってしまった。



↑びしょ濡れだけど記念撮影！

□まるで恋人！？アリヨン

留学中、最も仲が良かったのは韓国人のアリヨンだった。彼女は延世のお隣の名門梨花女子大の3年生。知り合つたのはトロハウスという、延世大の近くにある有名な日韓交流センターだ。インターネットでここの存在をたまたま見つけ、言語交換の斡旋を申し込み、紹介された。彼女は普通の韓国の女とはちょっと違う（？）、元気あふれる女の子だった。韓国語が初心者だった私は、初めは何を言っているのかさっぱり理解できなかつた。それも回を重ねるうちに理解できるようになった。私の韓国語が上達したのはひとえに彼女のおかげである。私たちにはよくテレビや映画の話をした。アリヨンは日本のドラマが大好きで、私より詳しいくらいだった。彼女とはと

ても気が合ったし、休学していて暇だったため、そのうち言語交換の日以外もプライベートで遊ぶようになる。韓国では休学するのはごく普通で、みんな語学研修などで海外に行く。アリヨンもアメリカから帰ってきたばかりだった。帰国間際には1週間ほど韓国南部の釜山や慶州に旅行もした。ついでに彼女の実家の光州まで訪ね、ご両親にもお会いした。私たちを知る友達は、2人はまるで恋人同士だというくらい、仲が良かった。

ちなみに面白い出会いもあった。性的マイノリティの人に初めて出会った。端的に言えばゲイだ。彼は日本語学科に通う大学生。彼のゲイの友達も一緒に、ゲイ映画を見て、ゲイバーに行つて、ゲイクラブに行くなんていうこともあった。まさか、儒教国家でこんなにもゲイに会うとは思わなかった。おかげでゲイに対しての偏見はなくなつたが。

■韓国文化■

□韓国人はカフェがお好き

私が留学中一番好きだったのは、カフェだ。よくカフェで勉強したり、友達と話したりした。とにかく韓国人はカフェが大好きで、スタバをはじめ、チェーン店のカフェが街中にある。値段設定は高め、安い食堂でご飯が食べられるほどの価格である。平気でコーヒー1杯500円とかする。値段が高いのはソファなどの設備投資と居座り料だろう。いつも若い女性グループやカップルでいっぱいだ。韓国の女の子は、遊びと言えばカフェだそうだ。ご飯を食べて、カフェに行く。お決まりのコースだ。カップルが多いのは、コーヒーの値段が高いのを知っていて、彼女が彼氏にねだるためらしい。



↑ カフェの内装はお洒落

□アジアのラテン、韓国

韓国のカップルは実に熱い。むしろ熱くるしい。ヤツらは人目を気にしない。さすがアジアのラテンだ。日本ではバカップルと言われそうな光景が、カフェでも、道端でも、そこら中で見られる。韓国語でカップルック、つまりペアルックをしている姿も見られる。ちなみに韓国にも合コンがある。ミーティング(meeting)と呼ばれ、やり方は日本と同じ。友人に異性を紹介してもらうことはミーティングをもじってソゲッティン(韓国語で紹介はソゲ)という。韓国人の女友達はよくソゲッティンをしていた。私も韓国人の男性にソゲッティンで知り合い、付き合って、韓国のかップル文化を…ということには残念ながらならなかつた。

ちなみに韓国では日本人がモテる。日本人というだけでモテるのである。日本で上位ランクにはとても入らない私ですらモテかねないのだから、相当な日本人のモテぶりである。言語交換のために、大学内にある掲示板で相手を募集して会ってみたら、全然日本語を勉強する気がない人も何人かいた。二度と会わなかつたが。アメリカ出身のクラスメイトも、よく韓国人の男友達に「日本人の女の子を紹介して」と言われると言っていた。どうやら、韓国では「日本」というだけでブランドらしい。日本製のモノ(食料品や日用品、服などなんでも)は韓国にあふれていて、それも人気があるようだが、人間もブランドとして見られている。「高いものは良いもの」という感覚がいまだに残っている国。人間に對しても同じだ。

話をカップルに戻す。彼らは情熱的だ。告白の仕方も相当すごいらしい。男友達に自分の経験を話してもらうと、ドラマではないかと思うような仕方だった。彼女の住んでいるマンションの庭に大きくハート型にローソクを並べ(友達に手伝つてもらつたらしい)、火をつける。そして彼

女に電話をかけ、ベランダに出てと言い、彼女が出てみると…下でハートの真ん中に立っている彼が見え、そこから「好きだ」と叫ぶとかいう…。聞いているこっちが恥ずかしくなるようなエピソードがいっぱいだ。また、誕生日でなくても彼氏はやたら彼女に花を送る。街中にたくさん屋台のお花屋さんがあって、デートのたびに彼女にプレゼントするんだとか。日本男児、韓国男児を見習うべし！

□「大丈夫」は大丈夫じゃない

アリヨンとカフェで話している時だった。その日寝不足ではちょっと疲れた顔をしていた私に彼女も気付いたのだろう、「大丈夫？」と聞いてきた（韓国語でか日本語でかは忘れたが）。私は「大丈夫」と答えたが、彼女は納得しない。それどころか「日本人はすぐ大丈夫っていう！」と怒り始めた。彼女の言い分によると、日本人は大丈夫じゃなくても大丈夫と言う、我慢すると言うのだ。確かに日本人はすぐ「大丈夫」と言う。遠慮するのが美しいとする国民性なのかもしれない。例えば寝不足で少し眠くても、歩き疲れていても、足をぶつけて痛くても、ちょっとお腹が減っていても、「大丈夫？」と聞かれたら「大丈夫」と答える。相手に気を遣わせるからそういう風に言うのだろう。彼女はそれが理解できないというのだった。韓国人は何でもはつきり言う。その方がお互いのためもあるし、眠い、疲れた、痛い、お腹空いたとはつきり言えばいいのと言っていた。この日以来、私も遠慮しなくなった。疲れている日には「今日は疲れているから帰る」と言えばいいだけで、あとくされもない。

よく観察すると、韓国人は自分の気持ちに対してストレートだ。不満は口に出すし、喜びも大きく表現する。前述のカップルたちも自分の気持ちを恋人に対してストレートに表現している所以なのだろう。韓国ドラマで女の子が彼氏に対して激しく叩いているシーンをよく見るが（街中でもよく見た）、それも感情表現なのである。

□携帯電話＆インターネット大国

韓国は日本よりインターネットのプロードバンド率が高い国だ。至るところにネットカフェがある。韓国人の学生を見ていると、インターネットやパソコン操作は随分手馴れているようだった。授業のパワーポイントの発表もきれいでまとまっていた。携帯電話も日本と同じように普及していて、一人一台が当たり前だ。待ち合わせを決めるのも携帯電話での通話やメッセージ送信。ただ日本ではe-mailでメッセージを送るが、韓国では日本でいうショートメールが各会社共通で、それを使うのが違うくらいで、カメラもついているし、テレビも見られる（ワンセグ放送開始は日本より韓国の方が先）。私も中古を購入し、プリペイドで利用していた。

この中古の格安携帯電話、安いいか壊れたのである。修理センターに持っていくと、その場に待機するエンジニアがすぐ直してくれる。しかしまだ壊れ、2回目の修理に行くとエンジニアは基盤の接続が悪いからといって、本体の側面にセロハンテープ（普通の、文房具の）を貼るだけで返してきた。内心ブチ切れ、もう2度と来るか！と思い、新しい中古を買った。安すぎる携帯電話にはご注意を。

さて、インターネットの話にいく。ある時、カフェにいると近くにいた女性が携帯電話のカメラで自分の写真を撮っていた。その場には、彼女一人しかいない。誰かを待っているのだろうか。人目があるなかで、一人でいるのに自分撮りをするなんて…驚愕の事態である。よっぽど彼女がナルシストなのだろうと思ってたら、後日カフェでたびたびそういう光景を見かけた。友達がトイレに立って一人になって暇をしている時に自分を撮る。友達といても自分を撮ったり、相手を撮ったり。どうやら韓国人は写真が好きらしい。と思って友達に聞いてみると、それは撮った写真をインターネット上で公開するためだという。日本でいうmixiのような、cyworldというネットワーキングサイトがあって、そこに自分の写真に文字を書いたりフレームをつけるなどして加工し、フォルダに分けて置いておき、友人に見せるのだ。日記メインの日本とはちょっと違う。なんてったって、「自分」というフォルダがあるんだから（それも、ほとんどの人が！）。もちろん

そこには自分の写真が並んでいる。人によっては「恋人」というフォルダもある。2人で撮った写真が並んでいるのである。他にもBBSや日記の機能もあるし、壁紙を好きなデザインに変えられたりと、機能は充実。私も登録して、写真や日記を公開した。もちろん今でも運営していて、韓国人との通信ツールとして一役買っている。

■帰国とその後■

□帰りたくない！

帰国直前、アリヨンの家に泊まっていた私は、毎日毎日「帰りたくない」と言っていた。帰国当日に撮ったムービーには、私が韓国語で帰りたくない、帰りたくないと繰り返している姿が映っている。はじめはほとんど好きでもなかった韓国が、帰る頃には大好きになっていた。辛いものが嫌いだったので、日本で友達に「辛いもの食べられないのに韓国なんて行って大丈夫なの？」と言われていたのに、韓国料理を普通に食べていた。それどころか日本に帰っても作りたくて、スーパーで食材を買い込んだ。

帰国の日、アリヨンとその妹に見送られた私は、「また来るね」ではなく、「帰ってくるね」と言って別れた。

□嫌い、だけど好き…韓国

留学前、私は韓国が好きでも嫌いでもなかつた。知識で言えば、韓国ドラマ好きの母とは比べられないくらい少なかつた。だというのに、気付いたら韓国大好きになっていた。英語を勉強するはずが、どっちかというと韓国語の方が得意になって帰って来てしまった。さらに、帰国してからの1年で3回も訪韓した。その時感じたのも「また来たな」ではなく「帰ってきた」だった。どうしてこんなに好きになったのだろうか。帰国して随分経った最近気付いたのだが、どうやらそれは韓国の国民性のせいかもしれない。私が思うに、物事をはつきり言って、あけっぴろげで、熱い国民性を持っている。そのうちの物事をストレートに言う部分が私の肌に非常に合っていたのだろう。日本にでそういうタイプの人間に分類される私が、韓国に行って適応できるのも納得いく。たまたま決めた韓国留学だが、もしかしたら韓国が私を呼んでいたのかもしれない。そんなわけないか。

もちろん、嫌な面もいっぱいある。でもやっぱり嫌いになりきれないという、私にとって韓国はおかしな国だ。正直、韓国がこれからどこへ向かうのかは分からない。特に学生を見ていると、彼らは自分の国を今後背負う氣があるのかと問いかけてくる。優秀な学生は海外へ、海外へと行こうとしているのだ。では、誰がこの国を担っていくのか。今、ウォン高が激しく、韓国国内はかつてない好景気だ。異常なほどの好景気、物価・土地高騰。バブルだ。いつかはじけるのでは…実は国民党は気付いているが、政府は有効な対策を打たないでいる。韓国はどこへ向かうのか。今後も見守りたいと思っている。

□これから…

日本に帰ると、日本語が街中からあふれている環境に違和感を覚えた。留学中、周囲の会話を盗み聞き、リスニングの練習にしていたからだ。しかしそれもそのうち元に戻り、何もなかつたかのような生活だ。しかし、韓国に行きたいと願いつつ、毎日を送っている。そのくらい楽しい

↓大好きだった学食のスンドゥブチゲ（2300ウォン）



毎日だった。留学しての成果の1つは、自分の大切にしているもの、捨てられるものが分かったことだ。私の中に根付いているものが何か、何を持って今後生きていきたいのか。私の「なんとなく」は形に変わった。

大学卒業後、私は留学とは全く関係のない職業に就く。卒業後という面では、ほとんど留学は役に立っていないかもしれない。ただ、大っ嫌いだった英語は、少しマシになったと思う。先日海外旅行に行った時は前より不自由なく英語が使えた。同行した母もびっくりしていた。喋ることに対して臆病じゃなくなつたからかもしれない。趣味が海外旅行の私にとってはそれも大きなプラスである。ちなみに動機に書いたヨーロッパ旅行でできた韓国人の友達3人のうち2人とは1年振りの再会も果たした。その時は全然韓国に興味のなかつた私が、韓国語を喋っていたことにひどく驚いていた。

では、この留学はなんだったのか。それは分からないが、全然言葉の分からない世界に数ヶ月身を置き、生き抜いた経験と、第2の母国ができたことで私は十分だ。来年いつ韓国に「帰る」か、今から楽しみだ。

■□■留学アンケート■□■

①その国に持って行って良かったものは何ですか？

留学前に手に入れた英・韓・日の電子手帳はかなり有効。言語交換すると日本語の質問も多いので、広辞苑などが入っているといい。

②その国に持って行かなくて後悔したものは何ですか？

スーパーもあって何でも揃うから、日用品には困らない。百円均一ならぬ千ウォン均一ショップもある。ハロウィンで仮装大会があった時は、着物を持って行けば良かったとは思ったけど。

③服装はどうしてましたか？現地で服を買いましたか？

韓国人の女の子は学校行くのも結構お洒落！でも彼女たちの服装は日本では真似できない…。結局ほとんど買わず、数少ない持参した服ばかり着ていた。ソウルの冬は札幌並みに寒いので、冬のことも考えてもっと持つていけば良かった。

④インターネット、音楽、書籍、テレビなど情報環境はどうでしたか？

韓国は日本よりインターネットが整備されていて、寮は一部屋ごと LAN 完備。街中にもネットカフェが多く、ネットで困ることはない。テレビは寮の共用スペースにあったが、インターネットでも見られるので毎日見ていた。知っての通りドラマは充実。本屋や CD 屋もいっぱいあって、日本と変わらない。日本の漫画を韓国語訳したものばかり置く本屋もある。

⑤留学生の国籍構成はどうなっていましたか？

全部で 332 人のうち、アメリカ 186 人、日本人 30 人、カナダ 20 人、中国人 16 人、オランダ 12 人。他に北欧、西欧、イスラエル、南アフリカ、メキシコなど。そのうち在米、在日韓国人など、在〇〇韓国人が 50 人いる。